

<b>Numbering code</b>		U-LAS06 10002 LJ41			
<b>Course title</b> <English>		法学 Jurisprudence		<b>Affiliated department, Job title, Name</b>	Graduate School of Law Professor, SASAKI TAKESHI
<b>Group</b>		Humanities and Social Sciences		<b>Field(Classification)</b>	Jurisprudence, Politics and Economics(Foundations)
<b>Language</b>		Japanese		<b>Old group</b>	Group A
<b>Number of weekly time blocks</b>		1	<b>Class style</b>		Lecture
<b>Course offered year/period</b>		2019・First semester			
<b>Day/period</b>		Tue.2	<b>Target year</b>	All students	<b>Eligible students</b>
For all majors					
<b>[Outline and Purpose of the Course]</b>					
<p>大学でどの専門分野の学習を進めるにしても、誰しも社会生活においては必ず法とのかかわりを持つことになる。この授業では、法・法学がどのようなものであるか、その全体像を把握することを通じて、各自の法とのかかわり点を確認し、社会生活における法の役割のあり方について理解を深めることを目的とする。</p>					
<b>[Course Goals]</b>					
<p>各自の専門分野との関連で、また現在・将来の社会生活を営む上で必要な法・法学の基礎的な知識を身に付け、その全体像を把握できるようになる。</p>					
<b>[Course Schedule and Contents]</b>					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい等に対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p>					
<p>第1回 法と政治  第2回 法と法学  第3回 法と医  第4回 法と薬  第5回 法と生物  第6回 法と物理  第7回 法と宇宙  第8回 法と国際関係  第9回 法と教育  第10回 法と経済学  第11回 法と文学  第12回 法と歴史  第13回 法と社会  第14回 法と未来  フィードバック方法は別途連絡する。</p>					
<b>[Class requirement]</b>					
None					
----- Continue to 法学(2)					

法学(2)

**[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]**

レポート試験を実施し、これにより到達目標の達成度に基づき成績評価を行う。

**[Textbook]**

授業時にプリントを配布する。

**[Reference book, etc.]**

**( Reference book )**

柴田光蔵 『タテマエ・ホンネ論で法を読む』（現代人文社）ISBN:9784887986742（各回の講義に直接関係しませんが、生活と法学の関連を味わってください。）

その他は授業中に適宜紹介する。

**[Regarding studies out of class (preparation and review)]**

予習：初回の授業以降、次回の授業に向けての課題を授業時に指定する。

復習：授業時に配布した資料などに基づき、授業内容が理解できているか確認する。

**[Others (office hour, etc.)]**